南北１６０km「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会だより　令和７年１月号

心わかかーカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822　鹿児島市泉町13番13号　　TEL　099-227-977

【巳年の新年を迎えて】

十島村教育委員会教育長　木戸 浩

明けましておめでとうございます。昨年の正月は一昨年の１２月２９日にフェリーとしま２の火災事故が発生し，その後の運行状況の予定が立たず，食料や生活物資，そして島民の移動がどうなるのかといった状況の中で，日々不安な思いをされていたと思います。

また，昨年元日の夕方に起きました「能登半島地震」では，多くの方々が被災され，犠牲者も多数いらっしゃったことも記憶に新しいところです。更に追い打ちをかけるように９月に再び集中豪雨が襲い，更なる被害や犠牲者が出てしまいました。被害に遭われた方々の一日も早い復興と，犠牲になられた方の御冥福を衷心よりお祈りいたします。

十島村でも地震や津波，火山噴火，台風に大雨などの自然災害がいつ起こるか分からない所はありますが，不測の事態が発生した場合にどう対応していくのか，そのために様々な避難訓練も毎年実施されているところであり，今後の対応をしっかりと準備しておくことが肝要かと思います。

新年がスタートしました。今年は巳年です。脱皮を繰り返し，成長して行く年になるように各自が自覚して幸せな日々を過ごしていけるように願っております。

◇“孔子が説く　人物の最高の評価基準！”

約２５００年前，古代中国の思想家・教育者であった孔子は人生における人の「過ち」について，弟子たちと真剣な議論をし，考察を行っています。孔子は日頃，人の真価はその言っていることだけでなく，その行動を観察して問われるべきだとしました。いくら口で立派なことを言っていても，それが実践できていなければ，その人物は評価に値しないということです。　孔子の説くところによれば，「仁」と「義」は人の一生において，根本的に重要ですが，「仁」の基本は「己の欲せざる所，人に施すこと勿れ」であり，「義」の基本はその実践には利他的な「勇」が伴う，といいます。「義を見て偽さざるは勇なきなり」とあるように，「勇」なくして「義」を口にするのは偽善であり，過ちだと説いているのです。また，「仁」と「義」を貫いて過ちなく一生を過ごすことは至難ですが，それ以上に自分の過ちを改めることなく繰り返す，これこそが本質的な過ちだとも言っています。過ちを再びしない，これを人物最高の評価基準としていたことが分かります。

目標や夢を口にすることはたやすいですが，それを実行し続けることはやはり難しいことであり，それ以上に，過ちを繰り返さないことこそが大切であるという教えをしっかり受け止めて，今年一年を頑張りたいと思います。

◇　高校入試に向けて！

今年は現在６つの学園に１５人の受験生がいます。正月明け早々に私立の入学試験があり，合格した生徒もいます。全国からの山海留学生もいるので，県によって入学試験の期日は様々です。私立高校を第一希望にしている生徒もいますし，３月の公立高校の入学試験を最大の目標にしている生徒もいます。

船の都合で受験に間に合わないということがないように，教育委員会としても，役場の担当課や学校と緊密に連携をとりながら，「１５歳の春」をつかみ取れるように，最大限の協力・努力をしていきたいと思います。受験生の吉報を祈っております。

令和６年１１月２３日　南日本新聞「若い目」

宝島学園のみんなへ

小宝島学園九年　久永　大地

みなさん、お元気ですか。僕が同じ十島村にある悪石島から宝島に初めて行った時、不安でいっぱいでした。みんながすぐに慣れることができ、親切にしてくれたおかげです。一緒に過ごす時間がとても楽しかったです。

九月、急に隣の小宝島に引っ越すことが決まり、とても寂しさを感じました。宝島を離れる前にキャンプをしてくれました。港では多くの方からお見送りをしていただきました。贈り物もたくさんもらいました。

ここ小宝島での生活にも慣れ、充実した学校生活を毎日送っています。

これから九年生は受験に向けて勉強に一生懸命取り組むと思います。他の学年のみんなもたくさんの行事などがあり、忙しい日々を過ごすでしょう。みんなで力をあわせて宝島を盛りあげてください。

また会えた時には、たくさん話をしたり遊んだりしましょう。お互い頑張ろうね。楽しい宝島学園生活をありがとう。

子供のうた

（十一月二十六日　南日本新聞掲載）

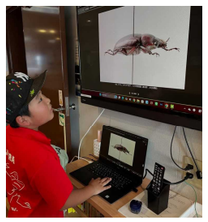
諏訪之瀬島学園二年　やざわ 春の

七のだん

かけ算をべん強しています
七のだんをいいます
七一が七七二が一四
七三が二八七四が二一
なぜか　七三と七四の答えが
反対になってしまいます
七五は三五七六は四二
七七は四九
七九は六三
七八は五六
といえます
七のだんはふしぎです

島を旅する博物館

文化庁事業を受けて、県立博物館との共催で一月十日から十五日まで十島村フェリーとしま２船内において移動博物館が開催されました。十島村での移動博物館は約二十年ぶりとなりました。



十島村「二十歳の集い」

１月１３日「成人の日」役場において「二十歳の集い」が開催されました。十島村の中学校を卒業した11名が対象となりました。当日は３名が参加し，二十歳の抱負を発表したり，ＴＶ会議で各島との交流をしたりしました。

十　島　村　で　学　ぶ

【平島に来て】

平島学園９年　中村紅音

私は現在，平島山海留学生寮に住んでいます。出身地は宮崎県綾町です。山海留学制度を利用して故郷を離れ，平島で中学校生活を送っている理由は，自立を目指しているからです。以前の私は，自分一人では何もできず，親に頼ることが多かったのですが，このままでは成長できないと思い，平島に来る決意をしました。

最初は生活の変化に適応するのが難しく，辛い時期もありました。しかし，先生方や仲間の支えがあり，すぐに慣れることができました。また，学習面でも，みんなで教え合いながら苦手な教科を克服することができました。寮生活は集団生活なので大変なこともありますが，たくさんの人との出会いを通じて自分自身を成長させることができ，非常に貴重な経験となっています。

私が描く将来には，必ず山と海が中心の生活があると考えています。まだ具体的な進路は決まっていませんが，教育関係の仕事に就きたいと思っています。この思いを抱いたきっかけは，両親や寮監，寮母さん，先生方から，「他人を思いやることの大切さ」を教わり，その価値観に心を打たれたからです。だからこそ，私は日々の勉強に一生懸命取り組んでいます。

時には，弱い自分に負けそうになることもありますが，将来の夢を実現するため，そして何より，「人生をより良くするために勉強する大切さ」を伝えられるように，今後も努力し続けていきたいと思っています。

【小宝学園からのメッセージ】

小宝島学園　教諭　比嘉乃奈

あけましておめでとうございます。２０２５年がスタートし，「もう，後１年しか十島村に居られないのか…。」と既に焦りと切なさで胸がいっぱいです。諏訪之瀬島で７か月間，１・２年生の学級担任をした後，有難いことに同じ十島村で採用されました。小宝島は，家から歩いて１分足らずで海に行ける幸せな島です。今までの大阪の職場に比べて職員が少ない分，仕事は忙しいものの，この恵まれた環境に日々感謝をしています。

十島村の学校では，遠足で釣りに行きます。子供たちは，遠足を通して釣りが好きになり，仕掛けを工夫したり，図書室の図鑑で魚を調べたり，自然と自分から学んでいます。私も十島村で釣りが大好きになりました。はじめは諏訪之瀬島で竹竿を作らせてもらい，透け透けの海を覗き込みながらオヤビッチャやオジサンなどの小さな魚を釣って楽しんでいました。小宝島に赴任してからは，山海留学生に教えてもらった竿を購入し，磯でハタやガブを釣るようになりました。週末に子供たちや地域の方に会うと，「また釣りですかぁ？」「何か釣れたぁ？」と声をかけてもらえて，とても嬉しいです。

そして最近，私は底物を狙って釣りをしています。先日，イシガキダイを狙っていたら，４６ｃｍのゴマモンガラが釣れました。狙いとは違ったものの，かなりのバトルで楽しかったです。何事も「継続は力なり」です。この特別な環境で，仕事も遊びも精一杯がんばります！

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

３学期はあっという間。特に，３月の異動時期はハプニングも多く，覚悟して心と体の準備をしておきたいです。十島村では「臨機応変」が大事だなと，日々痛感しています。